

TOEFL®教育者セミナー 2004 夏 報告書

『高等学校における英語教育と TOEFL®テスト』 -特色ある指導方法とその成果-



国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部 TOEFL事業部



国際教育交換協議会日本代表部



~ 40 周年を迎えて ~



- 国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部
- 日本代表 大竹和孝

国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部は、2005年に皆様のおかげをもちまして設立 40周年を迎えることになりました。1965年以来、私どもの各種国際交流プログラムには約4万人もの方々が参加しています。そのひとりひとりの参加者が、世界に羽ばたく人材になり人類の相互理解を促進することに役立っていると信じております。また、英語教育の分野でも、TOEFL®テストの実施を通して、総合的な英語能力を試したい方や海外留学を計画している方を積極的にサポートして参りました。偶然ではありますが、TOEFLも40周年を迎えます。

このたび私どもCIEEは「40年の実績を礎に、新たな国際教育の時代を築く」というキャッチフレーズのもと、グローバル社会に対応する新たな国際交流プログラムの内容を創意工夫し充実させていくとともに、英語教育の支援のために全職員が一丸となり、より一層努力を続けてまいる所存です。2004年秋より1年をかけて行います40周年記念事業につきまして、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「TOEFL®教育者セミナー 2004夏」報告書発行にあたって

国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部は、1981 年より米国の非営利教育団体 Educational Testing Service(ETS)の委託を受け、ペーパー版 TOEFLテストの運営、コンピュータテストセンターの運営を行って参りました。2000年10月からは、特に TOEFL® (Test of English as a Foreign language)の日本事務局として、同テストを活用される大学、高等学校、教育関連機関の関係者および受験者に向けての情報提供とその普及活動に勤めております。また、団体向け TOEFL テストプログラム (TOEFL®-ITP)の普及にも力を注ぎ、現在では日本で年間約13万5000名が利用しています。

TOEFLテストは永年、英語圏への留学の際に必要な英語資格として認知されてきましたが、昨今では大学などの高等教育機関を中心に国際標準の英語力測定試験として利用されております。文部科学省による「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」の発表でも、中・高等学校の英語教育内容の改善や、英語教員の英語力の目標値(TOEFLスコアに関してはペーパー版では550点)が設定されるなど、英語教育に関する改革が急速に進められております。

当事業部では、2002年の夏に「TOEFL®-ITPセミナー」を開催して以来、2003年には高等学校におけるアカデミック・ライティング指導に焦点をあてた「TOEFL®教育者セミナー 2003夏」を実施、本年は去る8月30日に「TOEFL®教育者セミナー 2004夏」を実施いたしました。今年も、高等学校に焦点を絞り、団体向けTOEFLテストプログラム【TOEFL®-ITP】およびETS開発のオンラインによるライティング自動評価ツール【CriterionSM】の導入事例について、3校の英語科の教員の皆様にご登壇いただきました。また、参加者も100名を越え、熱心で活発な質疑応答も行われました。

今回の、高等学校におけるTOEFL-ITPおよびCriterionの導入事例が報告された「TOEFL®教育者セミナー2004夏報告書」が微力ながら皆様のお役に立てば幸いに存じます。今後もこのような事例をいくつかでもご紹介することにより、皆様へ有意義な情報をご提供する役目を少しでも担うことができますことを願っております。最後に、セミナーにてご発表いただきました先生方には、ご講演はもとより、ご多忙にもかかわらず原稿の修正を快くお引き受けくださったことを心より感謝してお礼申し上げます。

国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部 TOEFL事業部 部長 高田 幸詩朗

TOEFL®教育者セミナー 2004 夏

高等学校における英語教育と TOEFL®テスト ―特色ある指導方法とその成果―

2004 年 8 月 30 日 東京ウィメンズプラザにて開催

目次

市原中央高等学校	英語コース主任	<u>木嶋勇一氏</u>	1
市原中央高等学校と普通科英語	ラコースの沿革		1
最後に			5
慶應義塾大学湘南藤沢高等部	英語科 主事	田邊 巧氏	7
慶應義塾湘南藤沢の特徴			7
英語時間の内訳			8
英語の授業の内容			8
学部への推薦			9
なぜ TOEFL-ITP かー1			9
なぜ TOEFL-ITP かー2			9
英検の受験			10
TOEFL-ITP			10
SEL-Hi 座談会			10
今後の課題			10
智辯学園和歌山高等学校 英語科	斗 教諭 レベッカ・ベ	ンワ(Benoit, Rebecca) 氏	13
智辯学園和歌山高等学校におり	する Academic Writing	指導	13
Introduction			14
Writing Instruction in Wakayama	Prefecture		16
Wakayama: Evaluation of Essays			17
Steps to consider when making a	writing program		20
Product & Process (Academic):	向陽高等学校(公立)と	全智辯学園和歌山高等学校(私立)	21
Results			22
Produces & Process: Creative (po	oems and stories)		23
Stories (responses & books)			23
Conclusion			24

発表者紹介



木嶋 勇一 (KIJIMA, Yuichi)
市原中央高等学校 英語コース 主任
京都外国語大学外国語学部英米語学科卒業
名古屋学院大学外国語研究科英語学専攻修士課程終了

平成9年より市原中央高等学校国際交流課課長および英語コース主任として、 コースの立ち上げと運営の中心となる。平成13年より学校法人君津学園法人本部国際交流室長を兼任。大学から幼稚園までの様々な場面において、実践に基づく英語教育を展開している。



田邊 巧 (TANABE, Takumi) 慶應義塾湘南藤沢高等部 主事 1953年 福岡県生まれ 早稲田大学 教育学部 英語英文学科卒

1993年より慶應義塾湘南藤沢中・高等部に赴任 中等部男子バスケットボール部監督・コーチ 2004年高等部主事



レベッカ ベンワ (BENOIT, Rebecca) 智辯学園和歌山高等学校 教諭

Rebecca Benoit holds a B.A. and M.A. in Cultural Anthropology/Museology from Trent University in addition to a B.Ed in TESL/TEFL from McGill University.

She taught English as a second language in Canada (Quebec) and Mexico before coming to Japan in 1998. For the last 6 years, she has been working at the senior high school level primarily in the area of essay instruction and listening for entrance exams. In 2002, she began teaching elementary English (Grades 1 - 3). Her research interests include CALL/CAI (automated assessment of writing, listening and speaking). She can be contacted at beccabenoit@yahoo.com

「高校英語教育と TOEFL®テストについて」

市原中央高等学校 (千葉) 英語コース 主任 木嶋 勇一氏

はじめに

市原中央高等学校の木嶋と申します。同校の英語科の教員として働くと同時に、学校法人君津学園法人本部の職員としても働いています。大学から幼稚園までの英語教育に携わっていますので、現場を重視した形で本日のテーマについてお話しします。

市原中央高等学校と普通科英語コースの沿革

まず、千葉県の南部に位置する市原中央高等学校の沿革を簡単に申上げます。

総合学園で清和大学・清和大学短期大学部・木更津綜合高等学校、そして清和大学附属幼稚園 3 園を有しております。私はそれぞれの英語教育プログラムに携わっておりますが、この全ての学園における英語教育の大元になっているのが市原中央高等学校の英語コースとご理解下さい。

市原中央高等学校は昭和58年に創設され、全日制・普通科・共学です。現在、生徒数は増えており921名です。また本校は開校当時から2期制を採用し、特別ゼミナールとして放課後補習授業、夏の合宿授業、春休みの合宿授業などを行い、4年制大学の進学を狙ってかなり力を入れてきました。したがって、開校当時からかなり受験の英語、大学入試に向けた英語対策を徹底してやってきました。

平成 9 年に市原中央高校の英語コースが設立されましたが、このころから大きな壁にぶつかりました。受験 英語を教え、生徒も頑張って勉強し、ある程度のレベルまで届くのですがそれ以上は届かない。本校は英語 科の授業についても進学校としてかなり実績はありますが、英語を中心とした大学、そして実際に使える英語 について疑問がありました。

そこでその当時、現場のスタッフから、「だんだん成績が上がってくると、中には留学をしたい人が出てくる。留学をしたいのだが、四技能に対応する英語力をもっていない。学校の中で英語教育をやっているではないか、ここは予備校ではなく人を育てるところではないのか」という意見がありました。また「生徒は大学に入ったから終わりではなくて、入った後の英語力についての責任が英語教員にあるのではないか」という意見も英語コース設立の準備段階から出てきました。その中で出した結論が、真の意味での国際人の養成をめざす英語教育のあり方について考えてみようということでした。約2年かけて、私どもの方で真剣に考えた結果、まず「ことば」としての英語教育を実践していく。つまり言葉は文化と表裏一体だから、「ことば」としての英語教育を実践して、実際に使える英語運用能力養成コースを作っていく準備を始めました。座学ではなく、キーワードでもある Learn by Doing、体を使って実際にプロジェクトを通して学んでいこうと考えました。それから英語がどんなに話せても英検1級をもっていても、実際にその国に行って習慣や考え方やマナーということを理解し学んでいかなければ人間関係をつくっていけない、つまり「異文化理解」です。

今まではどうしても受験英語、インプットが中心でした。最近、英語教育の中でテーマになっていますが、アウトプットへ転換をはかりました。学んだものを外へいかに出させるのか。最終的には総合的な英語力の養成を目指したのです。生徒一人一人の英語学習への興味・関心をいかに教員が高めるかの努力がベースになります。そして英語を通して様々な話題(トピック)について考えさせる。「文法を教えるのであれば、そこに入っている中身はドラえもんの話でも構わない。その背後の文法を教えたい訳だからそれを考えさせる話題を提示していこう、自分の意見を自由に述べさせる環境を作っていこう」と考えました。

さらに少人数でやることになりました。現在、1年生 15 名、2 年生 24 名、3 年生 13 名です。ある年には 25 名 の時もありましたが、平均すると 15~6 名に落着いています。私立ですから少人数は経営的にあまり好ましくないのですが、各人の英語力を TOEFL テストや様々な試験を使って成績を把握していくためには、この人数が

限界であると結論に達しています。 流れとして「聞く・読む」「話す・書く」を中心においたプログラムが各々あります。ペアワークやグループワークを中心にさまざまな課題(タスク)を与えて生徒同士が問題を解決していく 過程で学んでいきます。

英語コースのカリキュラム及び授業内容

英語コースのカリキュラムは、(1)「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の習得を目指す、(2)実際の場面においても使うことができる英語力を養う、(3)英語圏への文化・習慣に関する十分な知識を与え習得する3点を目標にしているため、時間数はかなり多いです。1週間あたりの英語の時間は、1年生・週9時間、2年生・週8時間~10時間、Reading(2)は国公立大学進学希望者もいる関係上、数学と選択できます。3年生は週15時間、1週間の授業の半分は英語です。ただし、一方的にその受験英語をやるのでは生徒はついてこないので、授業の各々の中身について生徒が飽きないで興味を持ち、動機付けをきちんとできるよう授業プログラムをスタッフは工夫・相談しながら取り組んでいます。

カリキュラム(英語専門科目)
「聞く」「話す」「読む」「書く」の4 技能の修得
実際の場面においても使うことができる英語力
英語圏の文化、習慣に関する十分な知識も与える

1年次	英語 I (4)	Oral Practice (3)	Cross Culture (2)		週9時間	
2年次	英語Ⅱ(3)	Reading(2)	Writing(2)	Oral Practice(3)		10時間
3年次	Reading(3)		Oral Practice(3)		英語演習 I Ⅱ (4)	週15時間

※Reading(2)は、数学と選択可能

具体的には1年次と3年次に「クロスカルチャー」という異文化理解のための科目を設定しています。英米を中心とした外国についてグループを構成させ、調査して研究をする。その後A4で約10枚英語による卒業論文を提出させます。ライティングの授業の中でアカデミック・ライティングを指導し卒業論文の作成を行っています。このように、様々なリサーチを通して、生徒たちは物事を調査・研究する技術を伸ばし、英語を活用する自信をつけ、アウトプットを一年生の段階から積極的にさせていきます。ただ単に「あなたの考えていることを話しなさい」では、なかなかついてきません。したがって調べてお互い助け合いながら、自分で英語を発表していく中で異文化理解に視野を広げる必要性に各々が気づいていきます。これを1年生の段階から行っています。

英語研修プログラム

授業の他に、市原中央高校の英語コースは、各学年に一つずつ「コアプログラム」という生徒の英語力を確実にするプログラムがあります。 1年次には 2 泊 3 日の英語合宿プログラムがあります。近隣の宿泊施設に日本に来ている外国人留学生に来てもらい、24 時間一緒に生徒と寝食を共にしながら異文化理解をする(米国からだけではなく今年はロシアやルーマニアから参加)。そして最終的には英語スピーチをするのです。2 年次に海外語学研修旅行、3 年次で米国大学の日本校へ一日語学研修に行き実際にコンピュータを使って、英語による卒業論文の最終指導を実施しています。いずれのプログラムも生徒が協力して各課題を解決する過程で英語を学ぶため、各プログラムの準備に約半年から一年かけて綿密に計画を立てて取り組んでいます。

その中に海外語学研修旅行がありますが、3 週間オーストラリアのブリスベンに出かけていきます。最初の 2 週間は、Griffith 大学で集中的に英語研修をしますがその研修もこちらのリクエストに応じたプログラムをやっていただいています。街にでて、実際にいろんなものを調べて授業を行う(リサーチプロジェクト)とか、博物館・美術館に行って調べたことを発表する等ディスカッションやプレゼンテーションなど行います。最後の 1 週間は、現地の高校で高校生と意見交換会や個人研究(事前準備をし、自分で調べてインタビューをして帰国してから

事後資料としてまとめる)をします。また帰国後もメールでやりとりを続けている生徒もいます。私どもとしてはできるだけ、多くの人と接することで 考えるきっかけをつくるポリシーでやっています。

今回7月10日から8月1日まで3週間オーストラリアへ海外研修に行き、生徒にビデオカメラを持たせて彼らの視点で撮らせてみました。この発表用にも約4分に編集しています。最初にチャイナタウンに出かけて、いろんな人に声をかけたり話し合ったりする様子、ホームステイ先へ引き取られていく様子、博物館に行って調べたことを発表する様子など見ていただけます。参加生徒人数は24名ですが、今の高校生は人間関係がうまくいかない生徒たちがいます。そこで現地で4~5名のグループにし、助け合って川を渡り山に登る作業をさせています。もう一回人間関係を再生させるプログラムをオーストラリアで実施して組んでいます。

日本人のスタッフが多いとどうしても生徒が日本語を話してしまうため、引率は基本的に毎年私1人です。現地のスタッフに依頼して生徒たちに話しかけるようにさせています。24名のうち男子5名、女子19名で非常に人数のバランスが悪いですが、いまどきの男子生徒が英語を話すのは難しいようです。したがってあえてビデオをもたせるなどして積極的に関わるような形にしました。短い期間ですが、最後の1週間現地の高校生と交流会で、事前に準備したもの(例えば血液型占いを用意したが、オースストラリアの子は血液型を知らないので成立たなかったなどエピソードもある)を使い非常に盛り上がった時間を過ごすことができました。

サポートプログラム

コアプログラムである 2 年生の海外語学研修旅行と 3 年生の一日集中語学研修の他に、英語コースの中ではサポートプログラムを実施しています。例えば、審査員を招いて、職員と一緒に審査をする校内スピーチコンテストです。そうすると、次は自分で外部のスピーチコンテストに参加したいという生徒が出てくるため個別指導を行ったりします。それから校内留学セミナー、TOEFL セミナー等を実施したり、本校がある市原市の国際交流協会が実施する留学生を招いての行事の企画・運営を本校の生徒が行っています。また千葉県の行事にも高校生として討論会等に積極的に参加しています。このようにさまざまなサポートプログラムを実施しています。

テストプログラム

このような英語教育プログラムの中で、総合的・実際的な英語力は、生徒・教員の両者にとってどの程度英語力が身についているのか把握しにくい現状にあります。そこで「生徒各々の英語力の進捗状況をより正確に把握して指導に生かす」、「英語学習における短期目標としての動機付けとする」ということで「テストプログラム」を実施しています。具体的には、コンピュータを使用する CASEC を通年実施、毎年6月に TOEFL-ITP、11月に TOEIC-IP を実施しています。これらのテストは指導者である私どもの方は指導状況、成果の確認のために利用しています。実際のデータは下記の通りですが、うまくいっていないのもあります、その場合はすぐに良くない点を直して新しい形で指導のアプローチを変更するミーティングをします。生徒にとっては短期の学習目標・学習成果の確認、そして学習動機付けの意味がありますし、保護者に対しては実際に個別面談や相談を実施します。留学希望者については、一年生の段階から TOEFL・TOEIC スコアに基づいて個別の指導を行っています。以下は、実際に今年6月12日に TOEFL-ITP を実施しましたデータです。

各学年平均スコア						
	Sec.1	Sec.2	Sec.3	Total		
1学年(15名)	38.0	40.2	36.3	381.8		
2学年(24名)	42.0	38.6	40.5	403.8		
3学年(13名)	44.9	44.9	43.5	443.8		
	各学	年の最高点				
	各学 Sec.1	年の最高点 Sec.2	Sec.3	Total		
1学年		1	Sec.3	Total 433		
1学年 2学年	Sec.1	Sec.2				

これは各学年の平均スコアデータです。TOEFL-ITP にはセクション1・2・3 がありますが、学年が上がるにつれ確実にスコア平均も上がっています。そして各学年の最高点は500点をオーバーしています。また生徒の中に帰国子女はいません。日本の中学校で英語が好きで勉強し、本校の英語コースにはいった普通の生徒ですから本人はかなり努力していると思います。全てのセクション(Listening・Structure and Written Expression・Reading)において伸びていますが、2年生の「セクション2:Structure and Written Expression」だけへこんでいます。私たちは原因究明のためすぐにミーティングをやりました。そして今度実施する11月のTOEIC-IPで改善がみられるかどうかを確認します。高校の現場としてTOEFL等のテストは、「全体を見てどこで躓いたかその理由を徹底的に分析しやり直す」「次回に改善点をスタッフミーティングの題材とする」という使い方があると考えています。

模擬テストの成績状況

市原中央高校英語コースは受験英語を全くしていないのかとよく聞かれます。実際、3 年生の英語研修という科目以外は、一切受験英語を行っていません。つまり、教室の中に受験英語を持ち込まないのです。理由は、最初に英語コースを作った理由に戻ります。受験指導は課外授業で、サマースクール、夏季セミナー、スプリングスクールで行います。授業の中では受験英語や問題集を解いたりはせず、全て英語で授業を行っています。そうなると「受験の指導を行わないのに、大学進学を目指している学校か」、「大学入試への対応ができるか」というご質問を受けます。

【模試の成績状況】

全統マーク模試 5/9/2004					
Name	得点	全国偏差値			
Α	168	70.1			
В	165	69.3			
С	154	66.3			
D	152	65.7			
Е	151	65.4			

全統記述模試 5/30/2004					
Name	得点	全国偏差値			
0	155	68.5			
Р	150	67.2			
Q	133	63.0			
R	132	62.8			
S	122	60.3			

上記は3年生のです。英語の河合塾マーク模試、全統記述模試の結果ですが(当然、この生徒には受験指導を行っていませんし、彼らは予備校にも通っていません)、普通に学校で勉強した結果の英語の偏差値です。高いか低いかは本日ご参加の各々の先生方の判断ですが、私どもとしては十分受験の英語に対応できておりTOEFLテストなどを使って総合的な英語力で受験に対応できていると判断をしています。

大学合格状况

それでは具体的に大学進学の実績はどうなっているのか。実は市原中央高校学校英語コースは独自の進路指導を行っています。英語を含む外国語系に進む生徒だけではなく、本人が海外研修にいって「私は、経済の勉強をしたい」とか「オーストラリアへ行ってお店を経営してみたい」、「法律の勉強をしたい」、とトピックを通して学ぶうちに将来の進路が変わります。その選択肢、進路方向にあわせてできるだけの進路指導を行うのが私たちの方針になっています。理系はちょっと厳しいですが、文科系であれば広い範囲での大学の進路指導を国内・国外を問わずに行っています。各生徒や、保護者と意見交換をしながらの結果になりますが、今春、英語コースの3年生は23名いました。平成9年から卒業生を出していますが、今まで全て現役で大学に受かっています。今春の結果です。

【今春の卒業生の大学合格状況】

早稲田大学国際教養学部	1	神田外語大学外国語学部	6
上智大学外国語学部	1	聖心女子大学文学部	1
立教大学文学部	3	麗澤大学外国語学部	4
学習院大学文学部	1	愛知淑徳大学ビジネス学部	2
青山学院大学文学部	3	愛知淑徳大学コミュニケーション学部	2
青山学院大学経済学部	1	【順天堂大学医療看護学部】	1
南山大学人文学部	1	学習院女子大学国際文化交流学部	2
獨協大学外国語学部	1	文教大学文学部	1
明治大学文学部	1	文教大学国際関係学部	1
法政大学文学部	1	拓殖大学外国語学部	1
明治学院大学法学部	1	名古屋外国語大学外国語学部	1
京都外国語大学外国語学部	1	【千葉県立衛生短期大学第一看護学部】	1
神奈川大学外国語学部	1	他	10

大学名を見て、なるほどと思われるかもしれませんけれども英語力を中心にして、自分たちで努力して勉強した結果です。【太字】は、自慢になりますが英語コースの生徒で、いわゆる看護系の大学へ進学したものが5人います。教員スタッフも理系ではないので指導が難しいのですが、自分達で数学をなんとか乗り越えて大学へ進んでいったという感じです。

最後に

まとめになりますが、きちんとしたプログラムを私たちがいかに組んでいったらいいのか、日々スタッフ同士相談をしながら考えています。そして、大学入試の英語に対しては TOEFL テストなどの試験を生徒の動機のひとつに使って、総合的な英語力を養成させ大学受験にも対応させることは可能だと思っています。今、英語コースの一期生が実際の英語力を持って社会に出ています。彼らは留学したり、一流企業で通訳として働いたり、外資系の企業で働いていますが、全て高校の英語力が元になっていると言っています。彼らの将来の英語力まで責任を持った形で高校の英語教育をやっていくためにはスタッフと生徒、保護者との強い信頼関係がまず必要です。当然それがあれば大学受験にも絶対対応できると考えています。

また、実際に TOEFL テストの結果資料はスタッフが成績推移などとして使用できるとのと同時に、生徒たちには自分の将来のことを真剣に考えて、世界に向けて羽ばたく1つの指針になっていると考えています。毎日、教師も楽しく教えており、生徒も楽しく学んでいます。英語コースを作ってよかったと感じている部分として英語に対する考え方を少し見直すことができたことです。

以上英語コースの行っていることを具体的に綜合的な英語力の事例とともにお話ししました。お手元に英語コース通信を一部入れています。不定期発行ですが、卒業生のことや TOEFL セミナーを行った様子がご覧いただけます。どうもありがとうございました。

質疑応答

同志社女子中学·高等学校教諭:白井雅裕氏

Q1:入学選抜方法について教えてください。

A1: 入学選抜は、学科試験(英語・国語)とグループ形式の会話試験を実施しています。

5・6 名のグループを形成させ、そこで会話をさせ、Native の先生と私が試験官として判断します。自己紹介を受験生にさせるほか、こちらからも簡単な質問をします。質問内容は英語が本当に好きか、過去にどんな経験をしてきたか、ホームステイに行ったことがあるか、英語の他に興味があることなどです。受験者数は約 120 名で最終的には 15 名~16 名を選出しています(実質倍率は 3~4 倍)。

Q2: TOEFL テストの到達値がありましたが学年毎に先生側で目標値の設定がありますか。

A2: 学年毎に目標値は設定していませんが、卒業時の最終目標が TOEFL テストだと 550 点、

TOEIC テストだと 700~800 点にしています。 そこを目指して勉強させています。

武蔵野大学・淑徳大学非常勤講師:杉山幸子氏

Q3:TOEFL と TOEIC テストでこの点数をとるのは高校生にとっては大変だと思うのですが、具体的に対策講座・授業をしていますか。

A3:最初にこのコースをスタートさせた理由でもありますが、受験を意識した授業・講座は設けていません。ただ質問をしてくる生徒に対しての個別指導は行っています。

Q4: TOEFL・TOEIC テストのスコアを伸ばすには多読・多聴が必要だと思うのですがその中でも Reading の授業に興味があります。 どのような形式で行っていますか。

A4: Reading の授業は、2年次は選択、3年次は必修科目です。使用教材としては2年生にはSRA(個別読解教材)を使用しています。一人一人レベルが違うため、各々のレベルで多読をさせ、全体の底上げを測っています。2年次に読解力をある程度上げて、3年次は英字新聞を元にした教材を使用したり、日本の大学で使用される本を読ませています。宿題でも多読を課しMaterialを与え、あらゆる場面で文章を読ませたりする中で自然と多読を習慣付けさせています。

慶應湘南藤沢キャンパス環境情報学部:水野邦太郎氏

Q5: Writing 授業の形式について教えてください。

A5: まず本校の英語の授業は、先生同士の役割分担がはっきりしています。つまり生徒の各英語力に対しての責任所在が明確であり、あまり自分の担当しているパートが伸びていなかったりすると先生自身も反省したり、お互いに意見を言い合ったりしています。本校の Writing の授業は生徒に「書く」ことを要求します。日本人の高校生は文法の間違いを気にする傾向がありますが最初は設定時間を設け、その中で書かせる。その後、正しい文法に直したり、生徒間で間違いを指摘しあうような授業形式をとっています。また、Writing 授業以外でもあらゆる場面で「書く」というアウトプット作業を課します。添削等大変ですが好きなだけ「書く」、その後、正確なWriting にするというのがやり方です。したがって「書く」ことに慣れている生徒はコンピュータ版 TOEFL テストのWriting Section に臆することなく臨んでいます。

山村女子学園高等学校教諭:伊藤智雄氏

Q6: 受験英語を意識することなく TOEFL・TOEIC テストのスコアが伸びていることに非常に感銘を受けました。 生徒がそれだけの結果を出すには、指導する先生側も各テストの研究や各自の英語力・力量が問われてくると 思いますが、具体的にどのような研究をしているのか、またスタッフのレベルをお教えいただけますか。

A6: スタッフの英語力は非常に高い(TOEFL600以上や、TOEIC970以上)ですが、授業中は、生徒に課題を与えて作業をするスタイルなので指示を与える・生徒をサポートするぐらいでしか英語を使用しません。また英語研修等に関しては、生徒と同様にNativeの先生と接する機会が多いため特別研修を設けるようなことはしておらず、お互いの授業を見たり、相談する場合は英語でしますのでOJTという感じです。ただ、生徒にTOEFL・TOEICテストの受験を促し厳しく要求をする以上、例えば先生同士で相談し合った内容を一冊の本にまとめていこうなど、自己研修はするように心がけています。

<以上>

TOEFL®-ITP の活用事例

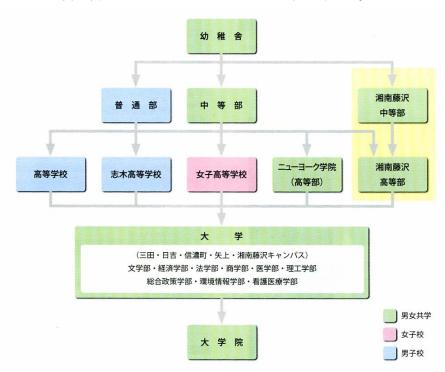
慶應義塾大学湘南藤沢高等部(神奈川) 英語科 主事 田邊 巧氏

慶應義塾湘南藤沢高等部英語科の田邊巧と申します。よろしくお願いします。本校は 1992 年に創立されまして、第一期生から TOEFL-ITP を高等部で全員に受けさせて参りました。本日はその利用理由と、その結果の分析をご紹介したいと思います。本校は大学受験がなく慶応義塾大学に学校長の推薦により、ほぼ 100% 進学できるようになっております。TOEFL-ITP 利用の目的は「受験目的」ではなく、①英語科の教員の自己点検、②クラスのプレイスメント、③学部推薦のための Exit Test の三つの目的があります。

慶應義塾湘南藤沢の特徴

TOEFL の話をする前に、慶應義塾における本校の位置づけと特徴をご説明いたします。SFC とは湘南藤沢キャンパスのアルファベットの頭文字です。合流型一貫教育と申し上げておきますが、高等生がおよそ720名、中等生がおよそ480名おります。そのほかに慶應義塾にはいくつか付属高校があります。男子校として横浜の日吉には慶應義塾高等学校と埼玉県の慶應義塾志木高等学校、東京三田には慶應義塾女子高等学校。高校レベルでは本校とアメリカ、ニューヨークの慶應義塾ニューヨークアカデミーだけが男女共学です。

もう一つの本校の特徴は、 帰国生を多く擁していることで す。全体の25%が英語圏での 生活経験のある帰国生です。 高等部から新たに約30名の 帰国生と東京、埼玉、千葉、 神奈川県以外の地域から約 20 名、三田の中等部と日吉の 普通部から若干名新しく入学 してきます。これらのほぼ全員 の生徒が慶應義塾大学へ学 校長の推薦で進学をします。 学部は文・経・法・商・理工・医 学・総合政策、環境情報・最も 新しい看護医療学部の9学部 あります。



これは今の合流型一貫教育を図にしたものです。高等部から 80 名加わって大学進学し慶應義塾大学にほぼ 100%進学できるようになっています。全体の 25%が英語圏からの帰国生であるというのは他の慶應付属校とは最も異なる点で、これは本日の話(TOEFL-ITPの利用理由)のポイントの一つになるとか思います。このように本校は他の慶應の付属校と違い、いろんな Background をもった生徒の集合体です。男女共学、地域調整枠、帰国生、他の中等部から入学しているということで生徒の構成が非常に多様に富んでいます。したがって、入学までの英語の習熟度や学習背景も当然違っており、英語の能力も非常に広範囲に渡っています。

当然授業のやり方も難しくなってきますが、極端な例ですが、最も長くこの一貫教育を経験する生徒(幼稚舎から入学した生徒)の場合、大学まで入学試験なしで行ける訳ですから、英語学習 Motivation をいかに喚起し、維持させるかということを念頭においておかねばなりません。逆にいうとテストでいい点数をとったら、それで満足とする授業のありかたでは学習者側が納得しないのです。いわゆる「大学受験」の成果をあげるための授

業ではないわけです。私は赴任当時、全然入学試験がないのにどうやって生徒に Motivation を持たせたらよいのかと思いました。適度な緊張感をもたせて、「英語が使える」喜びを感じさせなければなりません。

英語の力が非常に広範囲にわたっているので、ホームルーム単位で英語の授業をやるというのはとても困難な話です。英語が Native speaker 並みにできる生徒と英語が苦手な生徒を混在させて授業はなかなかできません。4年生(高1)では帰国生を引き抜いた形で、2つのホームルームを3つのクラスにします。5年生(高2)、6年生(高3)では TOEFL-ITP や普段の成績を見て α 、 β 、 γ 03つのレベルに分けます。一つのクラスは30名です。 α は一番の上級クラスで、帰国生を中心としたクラスです。 β は最もMotivationの高い、やる気のある生徒の集団と言っていいと思います。 γ は基礎力を充実させるクラス。実力の固まりで分けると、どうしても β が多くなってしまい、40名くらいになると思いますが、そうすると授業がやりにくくなりますので、30名で線を引いております。ですから γ 0上の方はまだやる気のある生徒がまだ残っています。

英語時間の内訳

1992年に英語教育を中心とした異文化交流、情報教育を2本柱として創立されました。英語教育を中心としているというと英語も授業が多数あるのではと思われがちですが、わずか6時間しかありません。

これを 2 時間ずつ、Listening & Speaking、Grammar & Writing、Reading の 3 つのコースに分けています。本校の特徴として Native speaker の先生を多く採用しています。英語科全員で 23 名の教員のうち、12 名が Native speaker で、中には担任を持つ先生もいます。Listening & Speaking のクラスは Native speaker の先生が 中心となって受け持ちますので、どのクラスも週に最低 2 時間は Native speaker の授業を受けるようになっています。

英語の授業の内容

大学受験がありませんので、テストベースの授業は全然ありません。あくまでも英語を Communication tool として使う訓練をすることが授業の中心です。英語を使って何ができるか。「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」のバランスを取る。これが中心です。もう少し詳しく授業の内容を説明します。

·Listening & Speaking

4年次では Informative Speech、Persuasive Speech、5年次では Discussion、Debate、6年次には帰国生は Model United Nations(模擬国連)、一般国内生は Drama を中心に授業を行います。昨年の文化祭で生徒たちが作ったドラマを発表し保護者の方がビデオ撮影した DVD がありますので、後ほどご紹介したいと思います。

·Grammar & Writing

一般のクラスで Cambridge University Press の"English Grammar in Use"というテキストを使っています。私の受け持つ Writing のクラスでは、最終的には英語の絵本を書かせています。そして夏休みの課題とし、文化祭で展示しています。2 学期からは Academic Writing をやらせます。特に身近な Topic (たとえば、Which do you like better, an analog watch or a digital watch, and why?)を出して、A4 用紙 1 枚に Essay を書かせています。ノートを使って Journal Writing もやらせています。しかしこれは非常に熱心に書いてくる生徒もおり、Comment を書いてあげないと生徒も満足しないものですから、こちらも構えないといけません。大変な手間のかかる作業ですが、続けなければなりません。

Reading

文科省の教科書を使う他、主に Paperback Reading などを利用して多読させています。教師によっては、 Japan times、Daily Yomiuri 等の英字新聞を利用して Newspaper Reading もしています。

学部への推薦

6年間の中高一貫教育の中で大学入試がないと、どんな Motivation で生徒たちが勉強するのかという不安 が常につきまといます。先ほどの9学部にどこでも行けるという訳ではありません。それぞれ推薦枠があり、成績 で割振りをしなくてはいけない訳です。4年次の成績1割、5年次の成績2割、6年次の成績3割、課外活動の 実績1割です。そして6年生の最後に TOEFL-ITP と学内統一実力試験を利用した実力テストの結果が3割入ります。3割と言うと大きな割合ですが、学部進学の進路指導の仕方が、いわゆる「人気のある学部に行くには 何点取らなくてはいけない」という方式ではありません。自分がやりたいことは何か、勉強したいものは何か、どう生きたいかという方針を基に進路指導をしますので、結局第一希望の学部にいける生徒が8~9割います。したがってこの競争もそんなに厳しくないといっていいでしょう。

なぜ TOEFL-ITP か?ー1

本校では 10 年間 TOEFL-ITP を利用して参りましたけれども、4 年次に Level 2、5・6 年年次に Level 1 を受験させています。4・5 年次の結果は次年度のクラス分け(プレイスメント)の参考にしています。6 年次には学部推薦の為の実力テストの一部として利用しています。この理由は、実力が広範囲に渡り成績をつける時に α の8 と γ の8 の差を是正してあげないと不公平ですから、できるだけ長い物差しで測れるものと言うことで、TOEFL-ITP を成績評価の是正に利用しています。TOEFL テストは英検と違い合否ではありません。そのため、毎年受験すると自分の実力の伸びが把握できる。これも TOEFL-ITP のいいところではないかと思います。

なぜ TOEFL-ITP か?-2

①Back Wash Effect

今回 TOEFL-ITP の活用事例を発表するため、データをいろいろ調べてみました。利用目的は、今年は Listening が弱かったとか、Vocabulary が身につかなかったとか、データを持ち、教員の自己評価をして改善を して行こうということです。

TOEFL テストはもともと「米国、カナダの大学や大学院に行きたい学生のための英語運用能力測定試験」ですから、当然中身は Academic で Authentic な英語です。こういう試験に早くから慣れさせるというのも非常にいいことだと思います。そんな試験を受けることで、生徒達自身が学習方法を変えて行くのではないかという期待も持っています。Back Wash Effect を Change of Learning Way とあえて書きました。我々の授業はテストベースではありません。TOEFL-ITP はあくまでもゴールではなく物差しとして使っています。ですから、正規のカリキュラムの中にTOEFL-ITPでいい点をとるための技術を教える授業はありません。ただし、TOEFLテストという試験に馴染めない生徒のために、親切な教師が 2 時間程度ついやして Listening Section はどういうものか等を説明する時間を設けたりすることはあります。

②留学の状況

今回の発表を機に、本校の生徒たちが留学をどの程度しているのかを調べてみました。この 10 年間に中等 部生 40 名、高等部生 31 名が1年以上留学をしています。かなり多い数です。一番多い理由は保護者の海外 転勤です。その他にも留学機関を利用して積極的に海外に出て行こうという生徒が多いようです。

③TOEFL®や TOEIC®の浸透

法科大学院が、TOEFL テストや TOEIC テストのスコアの提出を義務付けるようになりました。我々は 10 年前から TOEFL-ITP を実施していますが、TOEFL スコアの提出が義務づけられたということは本校の生徒に取っては有利だと思っております。

英検の受験

本校は英検の受験も進めております。試験会場にしているわけではないのですが、「外に出かけて行って、他校の生徒の真剣なまなざしを見てきなさい。」ということで勧めております。本校生徒の過去 5 年間のデータを取ってみました。最終学年の 1 級の合格者は毎年 20 人前後。もちろんこれはほとんど英語圏からの帰国生です。準1級を合格している(毎年6年で40名を越える)中には多少一般国内生もおります。おおまかな目標としまして、6 年生を終了するまでには英検 2 級ぐらいは受かっておきましょうということにしています。(2 級に合格しなかったからといって学部に推薦されないわけではありません)6 年生の英検 2 級以上の合格者は毎年 8 割くらいです。

TOEFL®-ITP

過去5年間の6年生のスコアの伸び

本校では TOEFL-ITP を 4 年生から 6 年生まで全員受験させております。6 年生の卒業間際のスコア平均は大体 500 の手前を行き来していましたが、この春卒業した 6 年生が初めて 500.57 という点を取りました。平均が 500 というと高校生としては高いと思われると思いますが、25%も英語圏からの帰国生がいるわけですから、ごく 当然のことかもしれません。平成 15 年度は α (約 90 名)の 6 年次の平均が 590 を超えています。我々一番関心があるのは、一般国内生が 1 年間でどのくらいスコアを伸ばすのかというところです。 β (約 90 名)のクラスで 1 年間でもっとも伸びが低かったのが、平成11年度の 10.5 ポイント、で最も高い伸びが平成 12 年度の 25.2 ポイントです。 γ (約 60 名)のクラスでは平成 15 年後は 1 年間で 44.4 ポイントも伸びました。過去 5 年間でも α も β も γ も 5 年次 6 年次の平均は右上がりに伸びています。

SEL-Hi 座談会

昨年度から文科省の SEL-Hi(スーパーイングリッシュランゲージハイスクール)の認定を受け、英語教授法およびカリキュラムの開発のための研究をしています。その研究の一環としまして、本校の卒業生に来てもらい、座談会の形で授業評価をしてもらいました。2 回のうち、1回目の集団は英語科教員の中で、在学中に非常に英語力を伸ばしたと印象に残っている一般国内生5人を集めました。そしてなぜそんなにやる気が起きたのか、"Motivation"を探るべく座談会を開きました。(2回目の座談会は既に社会人になっており①大学卒業後の英語とのかかわり、②その社会人という立場から見て、本校の英語カリキュラムがどうあるべきかを中心に話を進めました。)この5人の中には4年から5年にかけては、スコア-を123ポイントも伸ばし、さらに5年から6年にかけて97ポイント伸ばして、最終的に610に達した卒業生がいます。この生徒にここまで英語力が伸びた理由はなにか聞いてみました。彼は5年次のDebateの授業が非常に面白かったと言っています。Debateでは勝ち負けがはっきりするので面白く、負けてられないと思ったそうです。もう一つの理由としては、彼の親友の帰国生が話すきれいな英語に非常にあこがれたことだそうです。

今後の課題

大学受験がなくて英語の授業をどのようにしていくかということを考えています。まず、生徒が面白いと思う授業を展開していかなければならないと思っています。本校の教師はアメリカやイギリスの大学院で TESOL や関連分野で修士号を取った教師が多いのですが、その先生方と日ごろから情報交換をしながら、Incentive な授業を続けていくことに専念しています。

先ほどの TOEFL-ITP のスコアを毎年 100 ポイント近く伸ばした生徒は、Debate 担当の先生が非常に情熱のある、いい先生だったと言っています。現在その先生は残念ながら転居されて、本校にはいませんが、我々はそのような先生を常に確保しなければならないと思っています。特に人格に優れたネイティブスピーカーの先生を多く採用すると言うことは大きなカギではないかと思います。

もう一点は、本校は比較的新しい学校ですが、教室数が足りなくて悩んでいます。理事に訴えて環境整備を 行いよりよい環境作りをしていかなければならないと思っています。 最後に、昨年の文化祭で 6 年生の一般国内生が文化祭で発表したドラマの DVD を見ていただきたいと思います。[文化祭のドラマ DVD 再生] 以上で発表を終ります。

質疑応答

同志社女子高等学校•白井先生

Q1: 先ほど英語科の半分ほどがネイティブスピーカーの先生というお話がありましたが、私の学校にも 3 名ネイティブスピーカーの先生が常駐しております。ネイティブスピーカーの採用時の免許関係・在留資格のことについて少しお話いただけますでしょうか。

A1:英語圏からの帰国生を多く擁しているので、たとえば日本人である私が帰国生に英語の授業をしても意味をなさないのです。そういった意味でも、ネイティブスピーカーの採用を重視しています。招聘講師の任期は3年です。採用時の書類は綿密に見ますし、英語科で厳しく面接も行います。教員免許については事務のほうで申請をして「仮免許」をいただいています。

メリノール女子学院・黒田先生

Q2:ライティングに関してお伺いします。Writing の時間で、Creative Writing と Academic Writing を中心にされていると言うお話でしたが、コメントを書いているとの事でしたが、木嶋先生のライティングに関する説明で、グラマーをあまり重視せずに指示の中で最終的にまとめていくというお話がありましたが、田邊先生の場合、ライティングのグラマーのチェックに関してどのようにお考えかお聞かせください。

A2:本校の場合、先生によって考え方は様々ですが、私の場合はグラマーチェックをやります。

全部訂正していると、A4ページ1枚あたり1時間くらいかかってしまいますので、蛍光ペンで間違っているところをマークだけして、自分でテキストなどを調べさせたり、Peer Readingで帰国生にみてもらってもいい事にしています。本当は全部チェックして上げたいのですが、不可能ですよね。

私はグラマーを軽視してはいけないとも思っています。たとえば「冠詞」は非常に大事だと思っていますので、1 週間以上かけ「冠詞」を教えています。

Q3:ありがとうございました。続けて質問させていただきたいのですが、英作文を教えていく上で、グラマーを少しクリアしたら書いたものが英語的表現なのか、日本語的表現なのか、という判断が非常に大きくなってくると思うのですが、そのあたりはいかがですか。

Q3:例えば、日本人の私がコメント書くのと、ネイティブの先生がコメント書くのでは反応が全く違います。日本人と日本人のやりとりで間に英語を使うより、ネイティブ先生にコメントをもらったほうが、良いですので、こちらもどんどんネイティブの先生にまかせています。

初年度にあるネイティブの先生がジャーナルライティングでコメントを書くことを始められたのですが、その方はけっして赤鉛筆を絶対使わない。その方は赤鉛筆を使うと、正しいか間違いであるか、という観点で見ているような感じがするということで、ブルーのボールペンを使いまして、グラマーチェックは少なめにして、伝えたいことをコメントで伝えると言う形式を取っていました。加えて、本校は昨年度から高等生全員に Criterion を参加させました。これは文科省の SEL-Hi の研究費を使いました。エッセイ・ライティングにおける指導では非常に助かっています。

慶應義塾湘南藤沢キャンパス・水野先生

Q4:英語の授業の目的に、コミュニケーションを中心にしているというお話がありましたが、具体的にどのようなことを行っているのか、教えていただけますか。

A4:本校には留学プログラムがたくさんありまして、イギリス、アメリカ、オーストラリアの5校と、短期ですが、交換留学を行っております。

また、私は昨年度は韓国の女子高校とEmail Exchangeをやらせました。全員が長く続くわけではないのですが、

ただ英文 Email の書き方を覚えるだけでなくて、自分の英語が相手にどういうふうに伝わるのかを勉強します。 返事が来るのを非常に楽しみにしておりまして、未だに続いている生徒もおります。

インプットだけではなくてアウトプットも必ずやるということを重要視しております。

横浜国際女学院翠陵高等学校•朝野先生

Q5:うちでも Criterion を使ってみようと思っているところです。生徒の書いたエッセイを教員が直接見るというのも生徒が考えていることや間違いの傾向などを把握できるという利点があると思いますが、Criterionを使うことでそういったことに関する不具合や利点などを正直なところでお聞かせください。

A5:確かに Criterion 利用しっぱなしになりますと、生徒の気持ちなどが伝わってきません。しかし本校では Criterionだけをやらせているわけではなく、Journal Writingも同時にさせて教員が直接見ておりますので、その 点は大丈夫だと思います。

Q6:どのくらいの頻度で Criterion を使われているのですか。

A6:Academic Writing は高校2年生の2学期から使っています。去年は年度の途中から使用したものですから、トピックを3つほど与えましたが、全くやってない生徒もいましたし、積極的にどんどん自分でやっていた生徒もおりました。もう少し活用しなければいけないかなと思っています。

<以上>

Writing instruction in Japanese SHSs: Product & Process; Academic & Creative

智辯学園和歌山高等学校(和歌山) Rebecca Benoit 氏 B.A., M.A., B.Ed. (TESL/TEFL)

(beccabenoit@yahoo.com)

Abstract

The focus of this paper is to first highlight the importance of writing instruction in the Japanese Senior High School curriculum in order to reflect Ministry of Education Course of Study Writing Targets, and to prepare students for Japanese university English entrance exams (JUEEE), many of which now have free English composition (FEC) questions. Second, a balanced curriculum including both product and process-oriented instruction, and which allows for academic and creative forms of writing is recommended. Third, the holistic grading scale used in the TOEFL Test of Written English (TWE) currently used in Criterion's e-rater is presented. Finally, steps to consider when developing a writing program are suggested.

智辯学園和歌山高等学校における Academic Writing 指導

- Product-oriented Writing: (当日は実際に生徒が提出したもののコピーを配布)
- ・スタイル: 自由英作文
- ・出題形式: 宿題 もしくは授業中
- ・問題点: フィードバック・コメントやスコア グラマー・チェックの分量などのクライテリア
- ⇒ CriterionSM の利用:必ずしも英語のレベルが高くなるというわけではなく、どのようなスタイルの自由英作文でも英文の流暢さが増し、英作文の質が向上することを目的とした。この点からみても、Process-oriented な Criterion を導入することは効果的であると考えます。

Creative Writing

例:慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの田邊先生が当日持参された生徒作成の絵本

(Target Reader:幼稚園児程度)

例:智辯学園和歌山高等学校 3年生が同学園内の小学3年生のために作成

Terminology

- ·自由英作文: FEC (Free English Composition)
- ·大学入試英語: JUEEE (Japan University English entrance exam)
- ・Categories of teacher: JTE (Japanese Teachers of English), ALT (Assistant Language Teacher), Native English Teacher (自国で英語教員免許を取得した英語教員)
- ・product and process oriented writing: 高等学校において必須のアカデミック・ライティングスキル。

(いずれか一方ではなく、両方共に必要。以下の理由による。*1)今日、米国やカナダでは Process-oriented Writing が主流を占めているが、日本においては大学入試(JUEEE)がある点に注目すると、Product-oriented の英作文授業が大事だと考えます。

- *1 ① 大学入試に増えてきた自由英作文の問題数
 - ② 文科省による日本の英語教育方針のまとめ: Product Oriented と Process Oriented Writing の重要性について
 - ③ 総体的な評価の重要性: Holistic vs. Discrete grading

Introduction

In the last decade, the number of Japanese university English Entrance exams (JUEEE) with essay questions has quadrupled¹. Gilfert lists less than 20 JUEEE (Public, National and Private) with free English composition (FEC) questions in 1987 but in 2003, the number stands at over 80 (see Tables 1 and 2 below). In 2003, over 80% of Public and National universities had FEC questions on exams, and these questions were worth up to 20% or more. Nearly all of the top 10 Private universities also had writing questions on their entrance exams in 2003 (Table 2).

[Table 1. National and Public JUEEE with essay questions (1995-2003)]

愛知教育	岐阜	岩手	高知	新潟	琉球	静岡県立	東京教育
秋田	岐阜理系	自衛隊	熊本	岡山	佐賀	東北	筑波
愛媛	群馬	香川	京都教育	大分	埼玉	東京	都留文科
福井	浜松医	鹿児島	九州	大阪	滋賀	東京学芸	宇都宮
福井県	弘前	金沢	宮城教育	大阪市	滋賀県立	東京外	山形
福井医	広島	北九州市立	宮崎教育	大阪教育	島根	東京都立	山口
福岡教育	一橋	神戸外	長崎	大阪外	下関市立	東京科学技術	山梨
福島	北海道	神戸商科	長崎県	大阪女子	信州	都立科学技術	横浜
国立はこだて未来	茨城		名古屋市	小樽商科	静岡	東京工業	横浜市

[Table 2. Private Universities with FEC questions (1995-2003)]

Note: Due to the number of private universities in Japan and the lack of published information readily available, this list may not be complete. Last updated July 30th, 2004.

青山学院	関西学院	甲南	清泉女子	士田
中央	慶応	立教	聖心女大	- 上川 日 和 田
関西	法政	立命館	上智大	早稲田

このうち浜松医科大学の入試問題を例にとりあげ、問題内容を分析してみたところ、2001年度の入試科目英語のうち、自由英作文の割合は英語全体の20%を占めていました。質問は以下の通りです。

Answer one of the following:

- 1. "How to solve Japanese High School Dropouts"
- 2. "Why I think English is useful"
- 3. "Compare the people of East & West Japan"
- 4. "The meaning of the word: RESTRUCTUING"

(2001年度 浜松医科大学入試問題より)

興味を持ち、浜松医科大学の入試担当官にどのような対策が効果的かを尋ねてみたところ、大学入試の内容 については回答できないとの返事でした。しかし、できるだけ多くの大学の英語教員に質問を投げかけ、回答 がもらえるように試みていたところ、翌年の入試問題が次ぎのように出題されました。

Your essay should:

- ·Be a minimum of 150 words
- •Be written in paragraph form
- · Have at least 3 paragraphs
- · Have a clear intro, body and conclusion
- ·Leave a space between each paragraph
- · Your opinions be clearly expressed.

Explain why you wish to be a doctor. What is your motivation to study?

(2003年度 浜松医科大学入試問題より)

昨年は上記のような出題形式になり、自由英作文が入試英語に占める割合が25%でした。このような大学側の出題形式の変化は、入試英語を採点する大学教授陣が自由英作文に何を求めているかをはっきり示していると思います。つまり、入試の自由英作文では文法のみをチェックしているのではなく、英語のアカデミック・ライティングの「スタイル」を要求しているということです。多くの高等学校の英語教員たちが、大学入試の自由英作文では内容や文章構造、論法よりも、文法に力を入れていると思い込み、つづりの勉強などの指導に力を注いでいることが少なくありません。しかし、この浜松医科大学の例をはじめ、北海道大学の出題傾向をみてもわかるように、大学入試では確実に内容をチェックされており、これにともない高等学校におけるライティング指導の順応も不可欠だと思います。"Introduction-body-conclusion"のスタイル、つまり「英語的起承転結」は英語クラスでも必然として教えられる形式であり、また大学受験においても必要であるといえるのではないでしょうか。

大学名	11年	12年	13年	14年	15年
東京大	15	21	18	18	24
京都大	27	39	34	49	50
大阪大	27	35	27	25	33
神戸大	18	23	16	16	13
医学部	43	49	47	41	58

【智辯学園和歌山高等学校】

■ Academic SHS: 250 人/ Grade

On the structure of English essays

ただ英語を書くだけでは不十分である。自分の言いたいことを読み手にわかってもらうためには英文の構造について理解する必要がある。そのために文と文の間の論理的な関係を示す談話辞(例えば Firstly, Secondly, Furthermore など)を用いなければならない。

起 (房量) 20%	書き出し。これから 書こうとする事情を 提示する部分。	起 (序章) GIVE OPINION 25%	Introduction: about 3 sentences. (Give some background to the theme or topic) Thesis: Therefore, I agree with this idea for the following reasons.
承	起を受け、説明・補 足などをして書き	承	Firstly, for example,
040011	出しの内容を深め	(本論1)	Consequently,such as,
30%	る部分。	REASONS &	
0070		EXAMPL ES	In addition, Furthermore,
		25%	
転	転…起承で述べて きた内容に変化を	承	Secondly,such as,
(42)21	与える部分。	(本論2)	Therefore,
30%	本論2本論1を	REASONS &	
30 /6	さらに詳しく展開。	EXAMPLES	However, To illustrate
		25%	this point,
結	全体の結末をつけ る部分。	結	In conclusion, To conclude,
(結論)		(結論)	
20%		FINAL	As a result, Finally,
2370		оринон 25%	In summary,

SAMPLE ESSAYS: Do you think television is good or bad?
Explain your reasons. Witte no more than 60 words. 立命館 2003

	Explain your reasons. Write no more than 60 words. 3	立命館 2003.
	In my opinion, television is great for several reasons.	Therefore,
	Firstly, television gives us many kinds of information about	In my opinion,
1	weather, sports, and other countries. Secondly, it has a lot of	In my view,
	ongenams such as news and studies. As a result, we can get	I believe that,
	various types of <u>knowledge</u> and we can <u>anion</u> watching television.	Ithink that,
	In conclusion, television is good, wonderful and excellent. @www.	I dis/agree with
	In my opinion, television has a destructive and negative influence	First(Iy),
	on youth for the following reasons.	Furthermore,
2	Firstly, it shows terrible images like traq bombings, beheadings	In addition,
	in Saudi Arabia and murders. Consequently, some people	Moreover,
	commit violence for example, children playing video games	For example,
	sometimes <mark>fight</mark> after playing. In conclusion, it can be extremely	such as
	dangerous and hazardous to children. (56 words)	to illustrate
	I think television is wonderful and informative for these reasons.	Second(Iy),
	Firstly, it gives us a lot of information such as sports, today's	Subsequently,
3	world news and big accidents. Secondly, television <u>entertains</u> us.	Consequently,.
	For example, dramatic movies, comedies and K-1 battles are very	Accordingly,
	fun. In addition, we <u>need</u> television in our life. Accordingly, i <mark>n my</mark>	As a result,
	opinion, television is good. (57 words)	
	Some think television is unhealthy for eyes or studies However, I	In conclusion,
	think it's excellent and useful for the following reasons. Firstly, it	Finally,
4	gives <u>accurate information</u> quickly such as weather and news.	To conclude,
	Secondly, it enables us to <u>spend interesting time</u> with <mark>family</mark> and	In summary,
	friends. In conclusion, <mark>television is fantastic, great, and useful and</mark>	Lastly,
	plays an important <u>role</u> in our life. (59 words)	Thus,

The combination of a steady increase in FEC exam questions, coupled with Japanese Ministry of Education (文部科学省) Course of Study listing Writing Targets (Table 3) has created a positive washback, at least in Wakayama Prefecture, where essay instruction has been widely adopted in the English curriculum. This is fortunate since it would be quite challenging for students to successfully answer these questions without at least some instruction and practice (see Appendix A for sample questions).

【Table 3. Japanese Ministry of Education Course of Study for FEC (文部科学省)】

		<u> </u>					
Retrieved and summarized by R. Benoit July 2004 from: http://www.mext.go.jp/english/shotou/030301.htm .							
	•	Note-taking: To take notes and write impressions, opinions, etc. about what has been listened to or read.					
	•	Self-expression: To write correctly about one's thoughts and feelings to the reader.					
JHS	•	Responding: To write messages, letters, etc. that correctly transmit the writer's intentions to the reader.					
中	•	Dictation: To write down sentences that are spoken or read aloud.					
	•	Self-expression: To accustom and familiarize students with writing in English and to enable them to write					
		about their thoughts etc. in simple English. To read stories etc. and write about one's own impressions.					
SHS	•	Note-taking: To organize and write down information obtained by listening or reading, one's own ideas, etc.					
髙	•	Summarizing: To write down the outline and the main points of what has been listened to or read in					
		accordance with the situation and the purpose					

In addition to these important reasons to teach writing in SHSs, there are even more pressing grounds to teach essay-instruction:

- Instructing students to communicate their thoughts, ideas and opinions through various forms of
 writing is one of the most satisfying forms of teaching, since both students and teachers alike can see
 tangible evidence of language acquisition and progress.
- Writing in English is an essential part of life for Japanese adults involved in academia or business, whether it is in the form of writing reports, speeches or academic papers, or simple faxes, letters and e-mail.
- Disseminating ideas through writing leaves a permanent record of our thoughts and can be widely-accessible to millions (through the Internet, published papers etc).
- Writing allows for a more balanced and equitable exchange between people who may have differing levels of speaking or listening in English. Through writing, these exchanges can be more thoughtful and complete because of a longer time available for reflection and equal turn-taking.

Writing Instruction in Wakayama Prefecture

At recent seminars conducted to raise awareness about the importance of including writing in the curriculum, I was delighted to hear that most students in public schools throughout Wakayama Prefecture receive some kind of essay instruction. Surveys done of 115^1 JHS – SHS teachers in July 2004 showed that 82% had done FEC activities (asking students to write a few original English sentences). The majority of teachers explained that they had students write 5-6 sentences (40-50 words) on average five times a year, although a small number of teachers reported asking students to write on a weekly basis. Those who did not teach essay writing explained that the level of students at their school, or the time required for correction made it impossible or difficult for them to include in their curriculum.

Product-oriented と Process-oriented Writing を比較すると、基本的に多くの Writing スタイルは Process-oriented です。その一方で、日本の大学入試問題が Product-oriented ではないでしょうか。また、 TOEFL は Product-oriented スタイルをとっているテストではないかと思います。そうなると高校生には、やはり練習が必要になります。このように大学受験準備をする際には一言にライティングといってもアカデミックな面に焦点を当てる必要があります。

ただし、大学受験のために Product-oriented スタイルのライティングだけをしていていいのか、また Creative-writing のような別のスタイルを教える時間はないのか、というと必ずしもそうではありません。例えば、 先に発表された田邊先生の Storybook のような Creative Writing もできるでしょう。 Creative Writing のいい点は、 生徒たちが読み手の立場に立って文章を作成することを教えることがしやすいことです。 読み手を考慮に入れ て書くという作業は、アカデミック・ライティングにおいても必要なことであり、 Journal Writing や Story responses もそうですし Story book の作成や Criterion におけるライティングにも同じことがあてはまります。

更に強調したい点は、ライティングの評価システムについてです。ライティングをする際には、必ずといっていいほど評価の問題がついてきます。(【Table4】参照) 具体的には、生徒に対してどのように、どこまでコメントをするか、フィードバック、文法チェックはどの程度までするか、点数はどのようにつけるかなどです。一番いい方法のひとつは、生徒にフィードバックをあたえることです。実際、今まで教えてきた生徒たちは文法チェックや直しを好みましたし、もちろん自分たちが書いたものに対するコメントを喜んでいます。

しかし、過去 10~20 年間の調査によれば、文法チェックや採点に英語教員が割かれる時間があまりにも多いのに対して、それを返却された生徒たちが次のエッセイできちんと読み直し、学習して修正してくるかといえば必ずしもそうではありません。実際、リバイズした作文を見たときに、前回の文法チェックに対する効果はあまり顕著ではないという報告もあります。"Journal of Second Language Writing"の最新号にもまさに同じような言及がありますので、是非お時間のあるときにご覧いただければと思います。しかし、文法の直しをしたほうがいいのか、もしくはしないほうがいいのか、という点に関しては議論がつきません。現在もまだその議論は進行中であり、結論に至るまでにはもう少し調査の時間が必要なようです。

Wakayama: Evaluation of Essays

Of the writing activities described above, nearly 40% were entirely devised and corrected by JTEs (Japanese teachers of English), while 24% were done by JET Program ALTs (Japan Exchange Teaching; Assistant Language Teachers) and 36% of activities were planned and evaluated by both ALT and JTE. That teachers take the time to give some form of evaluation or feedback is admirable, but more troubling is that less than 5% of those attending the seminars reported knowing the specific Ministry Writing Targets for writing, knew little of holistic grading criteria or theory and most admitted having no background in writing pedagogy.

There was also a considerable difference in grading methods: from end comments to letter or number grades, simply correcting grammatical mistakes or using a more holistic approach (which considers the value, content and strengths of the overall essay, rather than a deductive or discrete point method which focuses more on grammar). Furthermore, none of the 90 teachers (of 115 attending) who returned surveys reported using or knowing about recognized methods of grading such as the TOEFL Test of Written English holistic scale (Table 4) or other writing scales published in books on EFL/ESL writing (see Bartram & Walton, Cushing Weigle, Ferris & Hedgecock, Kroll, Leki, Reid for more on assessing writing).

以下の Table4 は TOEFL テスト、Criterion の Holistic スコアスケール表です。本年は新しい試みとして、国語科と英語科が協力して統合的な作文の授業を行いました。まず、生徒が Criterion を使って書いた英作文課題を、国語の時間に日本語でも書きます。その際、採点基準を国語科でも英語科でも TOEFL スコアスケールを採用しました。(【Table 4】参照) Holistic スケールの長所は、信頼性があり、教員が更に研究を重ねて利用すれば更に信頼度やしつくりといく評価ができるようになります。というのも、Holistic スコアは詳細に定義されており、定義内容のチェックをしていくことにより評価が可能になります。正確な評価をするためにも、私は同じ英作文でも数回同じ項目をチェックしますが、この採点方式であればトレーニングは必要ありません。Analytic 評価スケールと比べてみても、Holistic スコアリングがいかに明快にポイント分けされているかがお分かりいただけると思います。(【Contrasting Scales】参照)

Contrasting Scales

[HOLITSIC H.p.13]

[ANALYTIC]

点

IIOLI	151C 11.p.15	ANALITIC	
SCORE	English	CONTENT	Feel (5 点)
6	Addresses the writing task well. Well organized and well developed.	& IDEAS	Message (5 点)
	Clear details to support main idea and show ideas. Displays consistent ability in the use of English.	LENGTH	35 語<= 1 点
	Demonstrates grammatical variety and good word choice.	Instructions	36 語-50 語= 2
5	Completes some parts of the essay better than others. Is generally well organized and developed. Uses details to support the main idea or explain an idea.		50 語+= 5 点
	Displays ability in the use of English.	LANGUAGE	Spelling (5 点)
	Demonstrates some grammatical variety and wide vocabulary.	Accuracy	Grammar (5 点
4	Addresses the writing topic well enough but not others. Is adequately organized and developed.	TOTAL	On 25 点
	Uses some details to support main idea or idea. Demonstrates adequate but inconsistent ability in grammar. May contain some errors that sometimes obscure meaning.		
3	Inadequate organization or development. Inappropriate or not enough details to support or illustrate generalizations. An awkward choice of words or word forms. Many errors in sentence structure and/or usage.		
2	Has serious disorganization or underdevelopment. Has little or no detail, or irrelevant examples. Many serious errors in sentence structure and grammar. Serious problems with focus on topic.		
1	May be impossible to understand. May be undeveloped. May contain severe and persistent writing errors.		
		-	

[Table 4. TOEFL – TWE Holistic Scale]

Originally translated into Japanese by Koyo SHS JTE Chika Nakatani, 2001. Revised translation by Japanese Language Teacher (国語の先生), Chiben Gakuen Wakayama Manabu Yasuno 2002; edited by Kaoru Iseno, JTE 2004.

SCORE	Teacher (国語の完全), Chiben Gakuen Wakayama Ma English		Japanese
6	Addresses the writing task well.		論点を明らかにするための説明が効果的になさ
	Well organized and well developed.	٧	れている
	•	\Rightarrow	論理の展開が非常に整然と適確になされている
	Displays consistent ability in the use of English.	*	論点や着眼点を説明するための明確で適切な
	Demonstrates grammatical variety and good word	Y	例が挙げられている
	choice.	\diamond	文が常に適確に構成され間違いがない.と-文の
	choice.	Y	構成や語彙に変化が見られる
			所が、「間来で交行がうしゃ」
5	Completes some parts of the essay better than		論点を明らかにするための説明が比較的効果的
	others.		になされている
	Is generally well organized and developed.	\diamond	論理の展開が概して整然と適確になされている.
	Uses details to support the main idea or explain		論点や着眼点を説明するための例が挙げられて
	an idea.		v3.
	Displays ability in the use of English.	\diamond	文が適確に構成され間違いがないと文章の構
	Demonstrates some grammatical variety and wide		成や語彙にある程度の変化が見られる.
	vocabulary.		
	•		
4	Addresses the writing topic well enough but not		論点を明らかにするための説明が一部効果的に
	others.		なされている.
	Is adequately organized and developed.	\diamond	論理が整然と適確に展開されている.
	Uses some details to support main idea or idea.	\diamond	論点や着眼点を説明するためのいくつかの例が
	Demonstrates adequate but inconsistent ability in		挙げられている.
	grammar.	\diamond	文が適確に構成されているが、構文あるいは語
	May contain some errors that sometimes obscure		彙の間違いが見られる. & 所々に間違いがあり
	meaning.		意味が曖昧になっている.
		ļ.,	
3	Inadequate organization or development.		論理の展開が不適切である。
	Inappropriate or not enough details to support or	\diamond	論点や着眼点を説明するための例が不適切ある
	illustrate generalizations.		いは不十分である.
	An awkward choice of words or word forms.	\diamondsuit	不適格な語彙あるいは用語が目立つ。
	Many errors in sentence structure and/or usage.	\diamond	用いられている構文自体あるいはその用い方に
			間違いが見られる.
2	Has serious disorganization or underdevelopment.		論理の展開にまとまりが見られない.
	Has little or no detail, or irrelevant examples.	⋄	例がほとんどあるいはまったく挙げられていな
	Many serious errors in sentence structure and	Y .	い。また不適確である.
	grammar.	\diamond	用いられている構文自体あるいはその用い方に
	Serious problems with focus on topic.	'	間違いが頻繁に見られる.
	serious proofeins with focus on topic.	\Rightarrow	論点が非常に不明確である.
			HIRATING OF THE COPO.
1	May be impossible to understand.	\$	理解不能。
	May be undeveloped.		論理の展開が見られない.
	May contain severe and persistent writing errors.		文構成上の重大な間違いが頻繁に見られる.
	-		

These inconsistencies make it challenging to truly evaluate the quantity, quality and types of writing instruction and evaluation happening in this prefecture, but it does at least point to a general trend that writing and its assessment is at least occurring. Clearly we need to provide our students with some kind of feedback, particularly when their essays are graded by unclear methods in high-stakes university entrance exams, but how much, when and what type of assessment to give remains open to question (Benoit 2003a). In the latest volume of the Journal of Second Language Writing (http://www.jslw.org/), Ferris states that

"we are virtually at Square One" when it comes to the debate on whether to provide students with grammar correction in their essays (Ferris, 2004, p.56).

Although, the best way to evaluate student writing is still uncertain, there are some established, recognized forms of assessment available as mentioned above. While the TOEFL TWE is one of the most well-known holistic scales for EFL and ESL students, there are others such as the Centre for Canadian Language Benchmarks (CCLB) (http://www.language.ca/bench.html) 9-point holistic scale, and the Ontario College of Writing Exemplars (a 4-point holistic scale). Publications produced by the CCLB are available, free, on the Internet and include comprehensive lesson plans, sample essays at each score level and complete descriptions of how to assess various forms of writing (there are over five reports of over 100 pages each). The Ontario College Writing Exemplars (http://www.hol.on.ca/ocwe/) have also correlated their scale with the CCLB's for easy comparison. These scales can provide a starting point for teachers who want to include writing, but may not know the best way to judge essays and how to provide useful feedback which will lead to improvements in student essays.

Steps to consider when making a writing program

Clearly the most important factor in writing programs which produce many essays requiring assessment and or feedback is a very energetic and motivated teacher who really enjoys reading (a lot of) student writing. However, it is possible, as I have done at both public and private schools (albeit academic) in Wakayama Prefecture for the last seven years, to create a strong, manageable writing program in as little as 30 minutes a week if one considers these key factors:

- 1. Proper and sufficient preparation (set-up of writing activities): Students must know why they are doing the assignment, how it is of direct relevance to their lives and finally, how to succeed by viewing samples of both strong and weak essays.
- 2. Relevant grading scales: Students must also understand the grading criteria before writing. Feedback from teachers should, wherever possible, be timely (within 2 weeks) and should include follow-up (explaining common errors, seeing successful essays) and, time-allowing, revision. Obviously, an experienced writing teacher is a more efficient corrector and so JTEs are perhaps best for this as they know their students far more than native speakers. Many JTEs I've worked with over the years stated a lack of confidence about correcting student writing and felt that native speakers were best at doing this. However, I strongly disagree with this since most of these public school JTEs work with ALTs, and over 96% of these native speakers have no teaching certification or TESL/TEFL qualifications. More importantly, they do not necessarily understand the Japanese educational or exam-context enough to adequately assess student writing (Benoit 2003b).
- 3. Accountability: Essay grades should be included in a course grading structure as a form of extrinsic motivation (if necessary) and as a reward and acknowledgement of the effort students show in their writing.
- 4. Level-appropriate assignments: Assignments should suit the level of students, in addition to being relevant to their educational goals and ideally be of interest to them (students can also assist in creating their own assignments). Assignments should, first and foremost, prepare them for upcoming exams and reflect Ministry of Education Course of Study.

Product & Process (Academic): 向陽高等学校 (公立)と智辯学園和歌山高等学校 (私立)

In the surveys reported above, none of the teachers reported having their students revise their essays. The students wrote the essay, it was 'corrected' and returned to the students again. This product-oriented approach to writing produces very little improvement in long-term writing ability in my experience. For 7 years, I've corrected thousands of essays each year (teaching, on average, 400-600 students a week) and have seen little improvement in writing ability if they are not encouraged to revise while writing and after initial assessment. For example, students in a product-oriented writing program I initiated at Koyo SHS from 1998 - 2001 wrote five essays a year (200 - 300 words each), but made little progress in their writing (if one considers their holistic score as an indicator of improvement). Partially, my failure to begin a program with process-oriented activities was dictated by the departmental focus on listening rather than writing. Similarly, in a public school, funding for a program like Criterion is not always available. Finally, the volume of students I taught (600) would have made it untenable to manage feedback without automated testing of multiple drafts. Conversely, students at Chiben Gakuen Wakayama (a private school), have the advantage of being able to use Criterion as the anchor for our process-oriented curriculum (see Table 5), have made measurable and significant improvement in their writing (see Benoit 2003a and b for more on Criterion). Students usually begin their essays in second term with a score of 2 – 3 (of a possible 6 on the TWE scale), but finish the year with their essays (after multiple revisions) at a score of 5.

Chiben Gakuen Wakayama pioneered the use of Version 1 Criterion in 2001 in Japan. To date, more than 1,000 of our students have used this Internet application. In the 2002-2003 academic year, students in our top 3 classes of Grade 11 averaged 5 on 6 in all ten of their Criterion TOEFL essays, while students in our 'lower' classes averaged 4 on 6. Teachers feel that Criterion accounts for the tremendous improvement and achievement attained in their writing. It provides them with instantaneous feedback and assessment which they report as highly motivating and over 85% of students surveyed at the end of the academic year wrote that using Criterion had been largely responsible for improving their writing.

[Table 5. Chiben Gakuen Wakayama: Writing Curriculum 2003-2004 academic year]

		Produc	Process	44%		
ТҮРЕ	Free writing By students	Past FEC from JUEEEs	Story Responses	CROWN essays	Criterion TOEFL	Storybook & Poems
Number /year	20	10	3	10	8	1 & 5+
Evaluated?	No	Yes	Yes	Yes	Yes	No
		(teacher)	(self/teacher)	(teacher)	(e-rater)	
Avg. words	60+	80+	100	150	310+	100
Total words	1,200+	800+	300	1,500	2,500+	500
% of program	18%	12%	4%	22%	37%	7%
Writing Type	Creative	Academic	Creative	Academic	Academic	Creative

Note: Minimum words/year: 6,700 語

ここで注目していただきたい点は、6,700 語という数字です。高校 2 年生が 1 年間で書いた英作文の文字数です。これだけの字数の作文をみるのは教員側もかなり大変です。とてもすべての作文の直しをすることはできません。そこで我々は、Free Writing や Journal Writing の場合、フィードバックは一切出しません。Story Writing に関しても、小学生を対象としていますが特に教員からの直しは入れません。Criterion を使ったエッセイはカリキュラムの 37%を占めておりかなりの量になります。Criterion はコンピュータによる採点とフィードバック

がでますので、我々教員の役目というのは Criterion ではチェックされていないような詳細部分を確認することです。しかし、この作業も先ほどの Holistic スコアスケールを使いますのでかなり早く簡単に作業ができます。いずれにせよ、Writing を教えるということはかなりのエネルギーを使いますし、根本は教える教員自身が Writing を好きであること、Writing の教員の視点から作文を読むことが苦でないことが条件だと思います。そしてもう一点は、各生徒のレベルに見合った問題を出題するということです。また、実際の大学入試問題を解くというのも、生徒たちにはインセンティブを与える効果が十分にあると思います。

この他にも、英語劇を通してStory responseをすることも可能です。私の場合は、教室の一番後ろに立って生徒たちへ英語でお話を伝えます。そして生徒を選び、教室の前で伝えたお話の内容を演技してもらいます。これは生徒にとってはとても大変なことだと思いますが、一通りの段階を踏めば物語について十分理解できるようになっていると感じています。

私が一番心配しているのは、盗作や無断引用です。智辯学園では、APA (American Psychological Association)スタイルを教えており、高校2年生から盗作は完全に禁止しています。

いずれにせよ、私のWritingのクラスでは生徒たちに私が確実に読んだという印を何らかの形で残しますが、1つ1つのすべての単語チェックや文法チェックはしません。隅々まで間違いを指摘されて「自分は英語ができないんだ」と思わせないように、ポイントだけを示唆します。これにより生徒自身がどの部分を間違えたかを認識し、学習する流れを作っています。また、授業中に私と JTE が教室を歩きながら、作文を書いている間に鉛筆で間違いを指摘することもしています。これは致命的な間違いを最後まで作文を書いてしまった後に気づく、もしくは指摘するようなことにならないようにするためです。

そして、Criterionも Writing の授業にはとても役立つツールのひとつです。それというのも、Criterion は文法、 慣用、そして一番重要な点としてストラクチャーを自動的に行ってくれます。このストラクチャーは、先ほどもお 話しましたように「英語の」形式を意味しています。つまり、**英語の論文は日本語の小論文とは**違うという点です。 ですから、Criterion を利用することでストラクチャー構造を教えることができ、またいろいろな色でハイライトされ て表示されるため生徒たちも好んで利用しています。

[Results]

Since adopting Criterion, Chiben students have consistently ranked in the top three of schools throughout Japan in writing on standardized tests which include essay questions. Results in Table 6 point to the impact that process-writing using Criterion has had on their writing (compared with a product-oriented program with JTEs correcting essays that existed before).

[Table 6. Chiben Gakuen Wakayama: Before & After adopting Criterion]

Note: numbers reported indicate Chiben percentage higher than the national average (全国平均)

Z-KAI National Exam			Benesse National Exam		SUNDAI	
Ranked #1 2002			(Feb. 2002 vs. 2003)		Ranked #2 2003	
]	Ranked #2 2003			Ranked #3 (Fuji/Nara Chiben**)		ı/Todaiji**)
Before	After	After	Before Criterion	After	Before Criterion	After
Criterion	Criterion	Criterion	2002	Criterion		Criterion
2001	2002	2003	10.5%*	2003	Data N/A	2003
9.7%	18.9%	20.2%		13.7%*		50%

^{*}NOTE: The scores reported for free writing are impossible to know exactly as they were reported grouped together as #6: 6a (50% for translation) and 6b (50% for free composition)

^{**}less than 50 students wrote the exams from these schools however, whereas all 258 Grade 11 students at Chiben wrote the exam.

At Chiben, a combination of activities including both product and process are used to prepare students for essays on JUEEEs and for future writing. Students write well over 5,000 words a year. Clearly, the 270 students in this program produce a lot of essays for the one instructor to correct. Using clearly-defined grading scales and a combination of self-correction, however, it takes on average 6-8 hours a week to grade the essays this program produces.

Produce & Process: Creative (poems and stories)

While academic writing should remain at the core of an exam-oriented program, students also benefit from some creative writing. At Chiben, students write poems, story responses and storybooks. The diamante poem form below is used for both creative expression as well as reflection on stories, books they have read in their Japanese Language classes (国語), in addition to brainstorming/mind-mapping or planning for compare and contrast essays. These poems take students about five to ten minutes and are ideal for collecting nouns, adjectives and verbs relevant even in academic essays. This form of writing also lends itself well to establishing a routine of revision since the form limits them to making choices and decisions.

智辯学園では、国語科と英語科の総合的な協力をして日英両語の文章スタイルを崩すことなく、両者の比較をしながら Creative ライティングを試みています。例えば、国語科で学習した「こころ」を英語科との協力で双方の授業に取り入れることを行っています。

[Diamante Poem structure and samples]

Form	Kokoro (Soseki)	Free Topics
	先生:勝者	FOREST
名詞(1つ)		
	繊細、やさしい	Green, fresh
形容詞(2つ)		
	盗む、絶望する、隠る	Walking, hiking, camping
動名詞(3つ)	内向、気配り、 不器用、尊大	Animals, fruits, disappointment, nothing
	自殺する、反抗する、従わない	Wandering, searching, dying
名詞(2つ) 反意語(名詞2つ)	かたい、強情な	Hot, thirsty
	K:敗者	DESERT
動名詞(3つ)		
	K	I
形容詞(2 つ)	Unrealistic, philosophical	Ordinary, well-known
	Weeping, dying, shouting	Falling, boring, crying
反意語(名詞1つ)	Lover, loser, winner, wife	Man, devil, angel, woman
	Weeping, dying, shouting	Wondering, charming, loving
	Clever, weak	Unknown, special
	SENSEI	YOU

Stories (responses & books)

Our Grade 11 students have the opportunity to respond to English stories they hear, and the option of doing creative writing which has produced some excellent stories. Both of these tasks are checked only by an audience of three (peer, family member and teacher). At the same time, since 2002, our elementary students have shown interest in English library books, but they needed something directly targeted to their current English ability and interests. As a result, we established a storybook project designed to provide elementary students with level-appropriate, high interest English books, while at the same time challenging Grade 12 students to produce a story for a wider audience (the entire elementary community).

In January 2005, we will expand this project so that all Grade 11 students will write stories for elementary students in Grades 1-3.

First, SHS volunteer writers conducted an English interview with all 80 of our Grade 3 elementary students (both classes of 40 elementary students are divided into 8 groups of five students). SHS students asked the children their name and about their favorite color, food, sport, character etc., and this information was included in each storybook. All 16 storybooks are written in dialogue style, with the students as the main characters, so that the books can also be read by each group as a short "play".

Once the SHS students had the interview information, they spent a month (in pairs or trios) writing and illustrating the books. Lastly, all books were photographed so that SHS students could have a digital copy of their work and so that the books could be posted on the school website (currently in progress). These books have been tremendously successful with the Elementary students who now have eight books in their class library which they can share during morning reading time.

[Conclusion]

In conclusion, a balanced writing curriculum at the SHS level which includes both product (for exams) and process-oriented assignments (to develop writing ability) can have not only an academic but also a creative focus. Such a program should be varied, stimulating and level-appropriate if it is to produce tangible results and considerable improvement in just a half-hour a week. In addition, the tremendous volume of essays such a program produces requires someone who can balance practicality with the need for feedback. Fortunately, Criterion and holistic grading scales make grading very efficient and manageable. Finally, ensuring that students are well-prepared and understand how to succeed on assignments makes for concrete learning and hopefully, a discovery of the joy of writing.

質疑応答

同志社女子中学•高等学校教諭: 白井 雅裕氏

Q1:一般的な英語の授業についてお伺いしたいのですが、Speaking から Writing、また逆に Writing から Speaking 能力を伸ばしているというお話でしたが、実際どのような関連性を見出していらっしゃいますか? A1:まず、私自身が Writing を教えることがとても好きであるということが重要なポイントの一つです。そして、ご質問の Writingと Speaking の関連性ですが、今日我々プレゼンター3名も、このプレゼンテーションのために何らかの文章を書いて準備したと思います。このように Writingと Speaking には深い関係があります。生徒に関していえば、多くの英語のネイティブスピーカー教員が、スピーキングやリスニングに集中した授業をする傾向があると思います。しかし、Speaking だけに特化した授業をすると、生徒の実際の能力よりもかなり下回った内容をしなくてはならなくなります。例えば、ショッピングへ行って何かを買うといったような内容です。しかし、Writing であれば生徒の能力を超えたものにまで挑戦できますし、また時間をかけることができます。

智辯学園和歌山高等学校には、スピーキングのカリキュラムは全くありません。全くのゼロです。しかし、Ordinate 社の Phonepass というスピーキングテストの被験者になったことがありまして、その際、生徒たちはかなりいい成績をとりました。一クラス 50 名で英語の時間が週に 6 時間(70 分授業×6)しかないため、Listening の授業も大学受験のためにほんの少し行っている以外、Speaking というクラスはありません。

また、留学の経験も生徒にとってはいい経験になります。生徒の中に、全く英語の話せない学生がいました。 彼女はすばらしい文章を書くことはできたのですがまったく話せませんでした。彼女がカナダへ短期留学しましたら、Level5(最下レベル)から Level2 ~ 1 ヶ月で向上したという例もあります。このように、2~3,4 週間の留学経験をさせることにより彼らのスイッチを入れることができるのです。 このように Writing の勉強は Speaking にも十分効果が見て取れると思っています。逆に、帰国した生徒が I wanna~というような文章を書くようになったりもしますが、アカデミック・ライティングという面からいえば、常にトレーニングが必要であるといえると思います。

慶應義塾大学:TOEFL 担当教師

Q2:私は5年間 TOEFL テストに関連したクラスを教えていますが、Writing の30分という制限時間の中で、英作文を書くのは至難の業だと思うのですが、どのような指導法をしているのでしょうか。また、復習はどのようにさせているのでしょうか。

A2: Process Writing はアイディアを膨らましていくのにとても役立つスタイルだと思います。常に読み手について考えるように指導しています。誰が読むのか、誰に対して書いた内容を訴えたいのかを考えながら書くように教えています。文章を書いているとつい、自分の文章のことについてのみに偏ってしまいがちで、ある種の「わがままライター」になってしまうことが多くあります。ですから、常に読み手について考えるように繰り返し話しています。

復習に関しては、必須です。復習の際には、毎度毎度「第一に、第二に~・・・結論として・・・」という文章構造を見直すように言っています。英作文の文章構造を頭に叩き込んでもらえるように、制限時間の30分が終わる前に再度「あなたのエッセイを読み返してご覧なさい。例は入っていますか?段落は5つありますか?」そして、再度同じことを「Firstly~、Secondly~を書いていますか?Conclusionはありますか?」と聞いています。

Q3:ということは Criterion を使い始める前に、文章構造などについて教える必要があるということですね? A3:もちろんです。我々が数年前にはじめて Criterion を導入した頃は、何の準備もせずにすぐに Criterion を使った授業をはじめましたが、大きな間違いでした。英作文は書けるのですが、PC 自体のテクニカルな面で大文字の出し方、やスペースのあけ方などを生徒が知らないという問題があったり、文章構造について教えるのに問題があるなど様々な壁に突き当たりました。ですから、まず紙に手書きでドラフトを何度か書かせ、それから Criterion の授業に移りました。

Notes.

1: N= 59 Junior High School (JHS) and 56 Senior High School (SHS) selected at random to attend the seminar; survey was informal, anonymous surveys conducted by the author in Wakayama City and Tanabe City in early July 2004 and 文部科学省-sponsored seminars. Return rates for these surveys was over 80%.

²: All 256 of our Grade 11 students were surveyed at the end of the academic year – contact the author for more detailed results (beccabenoit@yahoo.com).

References Cited.

Bartram, M. & **Walton**, R. (1994). Correction: A Positive Approach to Language Mistakes. London: LTP Teacher Training.

Benoit, R. (2003a). A Composition Program using Criterionsm. In JALT 2002 proceedings of the 28th Annual International Conference of the Japan Association for Language Teaching, Shizuoka, Japan, November 21-24, 2002. Tokyo: JALT.

Benoit, R. (2003b). 自由英作文とCriterion<u>日本におけるエッセイ・ライティング指導</u>. TOEFL Mail Magazine Retrieved July 2004 from: http://www.cieej.or.jp/TOEFL/mm_backnumber/mm18/gpc.html.

Cushing Weigle, S. (2002). Assessing Writing. Cambridge: Cambridge University Press.

Ferris, D. & **Hedgecock**, J.S. (1998). Teaching ESL Composition: Purpose, Process, and Practice. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

Ferris, D. (2004). The "Grammar Correction" Debate in L2 Writing: Where are we, and where do we go from here? (and what do we do in the meantime...?). In *Journal of Second Language Writing*, Vol. 13, No. 1 (49-62).

Gilfert, S. (1999). Let's Write in English: Teacher, we never learned that. In *The Internet TESL Journal*, Vol. V, No. 4.

Kroll, B. (1997). Second Language Writing, Research insights for the classroom. Cambridge: Cambridge University Press.

Leki, I. (1992). Understanding ESL Writers: A Guide for Teachers. New Hampshire: Heinemann.

Reid, J. (1993). Teaching ESL Writing. Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice Hall Regents.

Appendix A. Sample Exam essay questions.

	ou would like a complete catalogue of the questions from 1995 – 2003, please contact me by e-mail and I will set you. (beccabenoit@yahoo.com)	nd it to
#	Past JUEEE essay QUESTIONS	語
1	Imagine that you're a millionaire. You want to create a foundation which will give an annual award. What and to whom do you want to give an award? What kind of person and what kind of action/activity do you want to reward? Give reasons and examples. 大阪 2004	70+
2	 Imagine that it will take about 2 hours to commute to university from your family home. Would you rather live at home with your family, or live close to school in an apartment alone. Explain, giving reasons and examples. Read the following Japanese speech by a mountain climbing team leader and summarize what he means or says in about 60 words to an English-speaking exchange student who doesn't understand Japanese and asks you a question about his speech. 東京 2004 	100+
3	As the incredible development of both transportation and communication, the world is becoming what we call a 'global village'. Japanese people have more chances to communicate with people with different cultural backgrounds. In communication, what do you think is important for Japanese people? 茨城 1999	75-100
4	What do you think about the opinion that students will soon start studying English from elementary school? Remember your elementary school days and write your answer giving examples. 神戸市外 1997	100
5	Please tell us your key to success in the area in which you excel (photography, sports, art, music. Etc.) 神戸市外 1995	100
6	Recently, pet robots and robots in the form of humans have been invented. What kind of things would you like a robot to do for you? Give reasons and examples . 大阪 2003	70
7	What do you think of the expression "Honesty is the best policy?" Remember to count your words (but not commas) and write the number of words you wrote. 大阪外 2003	100
8	Do you think television is good or bad? Explain your reasons. 立命館 2003	60
9	Write one or two English sentences, using all the following words in any form: dream, fun, future, travel. You may use any other words you need. 島根 2003	40
10	Japan is rapidly becoming an aging society. In 1963, the number of people aged 100 yrs or over was approximately 150. Now there are approximately 18,000 people in this category. What effect do you think an aging society will have on Japan's economy, and specifically the welfare system? 下関市立 2003	100+
11	Write a thank you letter to someone about a gift that they sent you. Explain why you like it and how it will help you with examples. (20% of test grade) 静岡 2003	100+
12	Sign: "NO CELL PHONES AT SCHOOL!" Write an essay beginning with the sentence "I am FOR/AGAINST high schools prohibiting students from carrying cell phones because"早稲田 2003 18.5 cm x 5 lines	70
13	Some students have gone to a summer camp for two weeks. During the first week the girls get angry because the boys seldom help them do the cleaning up after meals. What should the girls do? 横浜国立 2003	20 - 30

国際教育交換協議会

(英語名称:Council on International Educational Exchange,略称 CIEE)

「世界はお互いに依存している一方で、文化的には多種多様に異なっています。その中で生きてゆくすべとして、国際理解を深め、知識を蓄え、スキル・能力を向上させる手助けをする」ことを CIEE は理念としています。1947 年に設立され、ニューヨーク州法による非営利団体として、学生、社会人、教員を対象とした様々な国際交流プログラムを開発・運営してきました。今日では、世界 30 か国にスタッフを擁し、年間5万に昇る若者や教員が CIEE のプログラムに参加しており、世界で最も大きな国際交流団体の一つとなっています。1998 年には、長年の活動実績が評価され、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)より、ユネスコと協力連携関係にある国際 NGO として承認されました。

日本では1965年(昭和40年)に東京、1989年に京都に、2002年に福岡に事務所を開設し、日本における国際交流の草分け的存在として38年にわたり各種国際交流プログラムを運営し、これまでに4万人余りの方々が参加しています。現在は、30年以上にわたり継続している海外の高等学校との姉妹校交流プログラムや、小・中・高等学校の教員のための海外短期研修、またその他に現在は、高校生を対象とした1年間交換プログラムや、主に大学生が中心の国際ボランティアプログラムやインターンシップ、個人語学研修の実施等、新しい時代のニーズに応じた企画も提供しています。その他、地方自治体が主催する高校生の海外研修や、政府が実施する英語教員の海外研修の企画・実施面での協力等、活動は多岐にわたります。

また、1981年に、米国の非営利教育機関である ETS(Educational Testing Service 本部プリンストン)の委託を受けて以来、日本の TOEFL Representative として英語能力判定試験の拡大、普及につとめています。現在は ETS 作成各種テストの広報宣伝活動のほか、高等学校、大学等で広く活用されている団体向け TOEFL テストプログラム (TOEFL®-ITP) の販売促進・運営業務、ETS 開発公認教材および新教育ツール LanguEdgeTM、CriterionSM の販売促進、コンピュータ版 TOEFL を補完する役割を果たしているペーパー版 TOEFL の運営面で ETS を補佐しています。

【TOEFL 事業部からのお知らせ】

国際教育交換協議会 TOEFL 事業部では、TOEFL 日本事務局として下記の事業を行っております。 ご質問、ご相談などございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

(詳しくはホームページhttp://www.cieej.or.jpをご参照ください。)

英語教育、外部試験利用状況に関する調査研究活動

TOEFL テスト他 ETS 試験の広報宣伝活動:

- -TOEFL テスト受験一般に関するお問い合わせ対応
- -TOEFL®、GRE®、SAT®の Bulletin(受験要綱)の配布

TOEFL®-ITP(団体向け TOEFL テストプログラム)の運営

ETS 発行の TOEFL®公式教材の販売取り扱い

ETS Showcase (当協議会レセプションエリア)の開設 (2003 年 11 月 25 日より)

-ETS プロダクツの最新情報提供、LanguEdgeTM、CriterionSM デモ体験セッション(要予約)

【TOEFL®メールマガジンのご案内】

2001 年 9 月よりTOEFLテストの最新情報をE-mailにて提供する「TOEFL®メールマガジン」をスタートいたしました。試験に関する最新情報はもちろん、TOEFLスコアやTOEFL-ITPの新しい活用事例、日本の国際教育に関する各界からのメッセージ、世界の英語教育事情などバラエティに富んだ内容を月 1 回無料でお届けしております。現在の購読会員数は、英語教育や国際理解教育にご興味のある大学・高校・企業関係者を中心に 3,000 名以上に上ります。購読をご希望の方は、TOEFL事業部までFAX (03-5467-7031)またはE-Mail (toefl@cieej.or.jp) にてお申込みください。







国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部

TOEFL 事業部

住所: 〒150-8355

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山ギャラリーフロア

電話: 03-5467-5477(広報チーム) FAX: 03-5467-7031

ホームページ: http://www.cieej.or.jp

【西日本オフィス】

住所: 〒606-8436

京都市左京区粟田口鳥居町 2-1

京都市国際交流会館3階

電話: 075-752-1130 FAX: 075-752-1131

【九州オフィス】

電話: 092-736-6740 FAX: 092-736-6741

本書に関しては、TOEFL 事業部 広報チームへお問合わせください。

本資料内容の無断複製・複写・転載は禁じます。 2004 年 12 月 初版 発行